

2. 火山の概況 (平成 20 年 2 月 15 日 ~ 平成 20 年 2 月 21 日)

桜島は、20 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベル 3（入山規制）からレベル 2（火口周辺規制）に引き下げた。

現在の火口周辺警報、噴火警報及び噴火予報の発表状況は以下のとおりである。



図 1 火口周辺警報及び噴火警報発表中の火山

○ 火口周辺警報

噴火警戒レベル 2、火口周辺規制 : 桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
火口周辺危険 : 三宅島、硫黄島

○ 噴火警報（周辺海域）

周辺海域警戒 : 福德岡ノ場

○ 噴火予報

噴火警戒レベル 1、平常 : 樽前山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、
浅間山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、
霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島
平常 : 上記以外の火山

噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入している（現在、噴火警戒レベルを導入している火山は 16 火山である）。

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

みやけじま

三宅島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

噴煙高度は火口縁上 100～300m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

2月20日に行った現地調査では、二酸化硫黄放出量は一日あたり 1,300～2,100 トン（前回 1月30日、1,800～2,500 トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。雨による泥流にも注意が必要である。

いおうとう

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

国土地理院及び防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、島全体が大きく隆起する地殻変動は鈍化したものの現在も継続している。

硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火がみられていた領域では噴火に対する警戒が必要である。

ふくとくおかのば

福德岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）]

海上保安庁、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海面に、火山活動によるとみられる変色水が確認されている。

福德岡ノ場では小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

さくらじま

桜島

[火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）] ←20日に噴火警戒レベル3（入山規制）から引き下げ

昭和火口では、6日11時25分の爆発的噴火以降、噴火は発生しておらず、噴煙の高さは概ね 200m で経過した。また、火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていない。これらのことから、20日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げた。

今期間、南岳山頂火口では噴火は観測されなかった。

二酸化硫黄放出量は、3日の昭和火口の爆発的噴火以降、一日あたり約 3,000 トンに増加したが、13日（期間外）及び15日に行った現地調査では、一日あたり 400～1,200 トンと、元の状態に戻っている。

桜島では、南岳山頂火口及び昭和火口の周辺に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの火口周辺では噴火に伴う大きな噴石の飛散に警戒が必要である。風下側では降灰及び火山れき（小さな噴石）に注意する必要がある。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、次第に活発化している傾向がみられる。今後の火山活動の推移に注意する必要がある。

さつまいおうじま

薩摩硫黄島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上概ね 300m で推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

硫黄岳火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。

すわのせじま

諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、15日に御岳火口で小規模な噴火が発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では今後も御岳火口から半径約 1 km の範囲に噴石を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山については、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ）噴火の兆候はみられない。